

皆さん、お花見は行きましたか？
サクラの散歩で行く弁天山の桜が今年もとてもきれいで、毎日の散歩がとっても楽しみです！
しかしこの時期散歩をすると私はクシャミ、鼻水、目がかゆくてたまりません。ご両親の花粉症のお薬は予約なしで処方しております。お気軽に受付までお申し出下さい。

院長 池澤滋

感染症情報 2/24~3/23	前回	今回
RSウイルス感染症	5	15
アデノウイルス	6	2
溶連菌感染症	25	8
感染性胃腸炎	128	96
突発性発疹	9	0
手足口病	3	4
ヒトメタニューモ	0	8
新型コロナ	8	2
インフルエンザA	42	2
インフルエンザB	2	5



「ミラクルな君」
子ども達がまだ幼い頃、花岡山に桜を見に行きました。そこでミラクルなことが起きたのです(笑)

4コマまんが
作・絵
ちえこ&きみこ

4月

- ★クリニック予約
- ★クリニックホームページ
- ★いけざわ beauty(インスタ)
- ★クリニック Instagram

こちらから → → →

見えない愛、見える愛

東京から帰省した娘を見送る前に入った空港のレストラン。ちょうど12時で店内はごったがえしていたが、なんとか奥のテーブル席に2人座れた。娘の背後に座っていたのは車椅子の男性、70歳くらい。目が見えないのだろう。瞼はもう閉じていて、その向かい側には、息子と思われる男性が満面の笑みで座っていた。ウエイレスが運んできた食事を息子さんが嬉しそうに小皿に取り分け、お父さんに小皿とスプーンを持たせる。まるで初めてスプーンを持たせる3歳児のように。
よほどお腹が空いていたのか、勢いよく山盛りのご飯をスプーンですくって口に入れる男性。ご飯が熱いのか飲み込む時に、詰まらせた？！というほど苦しうに顔も体も一時歪めるが、スプーンの勢いは変わらない。それどころか、自分の口をお皿のご飯に直接つけてより勢いよく食べようとする！その様子を息子は笑顔で見ながらお父さんの頬に手を伸ばして、ちゅんちゅんと優しくタッチする。そのちゅんちゅんの合図は1分に1回のペースで、何度もお父さんの頬に手を伸ばす。それは「おいしいね」なのか「慌てないで」なのか「僕はここにいるよ」なのかわからない。でもずっと目を閉じモグモグする父の顔を見ながら、自身も嬉しそうにバクバク食べる。隣のいかめしい顔のサラリーマンの男性たちは全く興味もなさそうで、気にもしていないが、私と娘はその親子を見て泣いてしまった。
目が見えないから、こぼさないようにお水も食事も手の届かないところに置いて、食事も自分も手前に置いて、お父さんの取り皿のご飯がなくなれば追加する。まるで、一人で食べ始めた幼児に食べさせるみたいに、息子は笑顔でお父さんを見守った。

まるでこの世界に2人しかいないように、周囲の人のことなど一切気にせず、彼は目の前の父親に全身で愛を注いでいた。私は目の前に娘がいるというのに、その背後の二人から目が離せなくなっていた。この広い空港の、たまたま入ったレストランで出会った親子を見て、私はこれが人間の最も美しい姿ではないかと震えたのだ。何を話しているのかなんて聞こえなくていい。ただ、その美しい親子の風景をずっとずっと見ていたかった。お父さんが胸にこぼした沢山のご飯粒を、たくさん食べたね！良かったね！という表情で、大量のティッシュを使ってお父さんの口の周りを拭き、帰り支度をする。車椅子を押す息子の背中中は細いがとても力強い。そっと振り返り、その2人を見ながら唇をグツと結んだ娘が「これからどこへ行くんだろうね」と呟く。ほんと、この素敵なお親子はどこへ行くというのだろうか！目を閉じたままの父親と笑顔で車椅子を押す孝行息子。父は最愛の息子の顔を見ることはできない。この父親を見る彼の眼差しを！この慈愛に満ちた表情を！お父さんに見せてあげたい！と思った。

どんどん時間が流れてあっという間にこの歳になった。これから先もきっとあっという間なのだろう。この人生に出会えた「我が子」という存在は、私にとっても人生で最も価値のある存在だと改めて思う。私が車椅子になった時、私が見えなくなった時、子どもたちは私を外に連れ出してくれるだろうか。一緒に食事をしてくれるだろうか。たとえ何も見えなくても、大切な人と食べる食事は何だってこの世で1番美味しくて、何も見えなくても、見えないからこそ私はきっと愛する人と同じ世界を感じたいと願うだろう。

